

- 問1 中国の歴史書『魏志倭人伝』に記録されている邪馬台国の女王卑弥呼は、当時の中国の王朝である魏に使いを送りました。卑弥呼がこのような外交を行った背景や、その結果として得た称号について述べた文として正しいものはどれですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 大陸の優れた青銅器技術を独占するため、皇帝から「遣隋使」として認められた。 | 2. 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。 | 3. 白村江の戦いでの協力を依頼するため、皇帝から「日本国王」の称号を授かった。 | 4. 仏教を日本に広めるための援助を求め、皇帝から「倭王武」の称号を授かった。 |
|--|--|--|---|
- 問2 弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い壕や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため | 2. 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため | 3. 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため | 4. 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため |
|--|---|--|---|
- 問3 弥生時代に環濠集落が形成されるようになった直接的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 大陸から仏教が伝わり、寺院を中心とした新しい町づくりが推奨されたため。 | 2. 気候の寒冷化により、家畜を野生動物の襲来から守るための囲いが必要になったため。 | 3. 大規模な土木技術が導入され、洪水などの自然災害から住居を守ることが目的となったため。 | 4. 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。 |
|--|--|---|--|
- 問4 紀元1世紀ごろ、日本の小国の王が、中国の皇帝に対して貢ぎ物を送る「朝貢（ちょうこう）」を行い、金印を授けられた主な理由や背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 中国の進んだ仏教文化を日本に導入するために、僧侶を派遣する正式な許可を得るため。 | 2. 日本国内の統一を成し遂げたことを報告し、中国への輸出関税を免除してもらうため。 | 3. 大陸で勢力を強めていた高句麗に対抗するため、中国と軍事同盟を結ぶ必要があったため。 | 4. 中国の皇帝から王としての地位を認めてもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。 |
|---|--|--|---|
- 問5 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|---------|-------|
| 1. 青銅器 | 2. 鉄器 | 3. 磨製石器 | 4. 埴輪 |
|--------|-------|---------|-------|
- 問6 弥生時代、土を耕すための農具や敵と戦うための武器には、青銅ではなく主に「鉄」が材料として選ばれました。このように鉄器が実用品として普及した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。 | 2. 鉄は青銅よりも融点が低く、当時の未熟な技術でも簡単に大量生産することができたから。 | 3. 青銅は非常に重く持ち運びが困難だったため、軽量の鉄が実用的な道具として好まれたから。 | 4. 鉄は日本列島で独自に発見された金属であり、大陸から輸入する必要があった青銅よりも安価だったから。 |
|--|--|---|---|
- 問7 ある博物館の「原始・古代」の展示室にて、3世紀の日本の様子を調査するために注目すべき史料や展示品の説明として、正しいものはどれですか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印と、当時の北九州の王が後漢へ朝貢したことを示す記述。 | 2. 中国の歴史書『魏志倭人伝』の記述と、邪馬台国の女王が魏の皇帝から授かったとされる多数の銅鏡。 | 3. 日本最古の貨幣とされる富本銭と、大宰府跡から出土した当時の外交官の記録。 | 4. 飛鳥時代の政治状況を示す「古代の戸籍」の断片と、仏教伝来の様子を描いた壁画の模写。 |
|--|---|---|--|
- 問8 歴史上の生産活動の発展において、農具の素材が変化したことは大きな意味を持ちます。鉄製の刃先を用いた農具への変化について説明したもののとして、正しい記述を選んでください。 (2016年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--------------------------------------|
| 1. 鉄の刃先が導入された後も、土を耕す作業には一貫して木製のみの道具が使われ続けた | 2. 鉄製の農具は重すぎて実用的ではなかったため、主に祭祀用の道具として使われた | 3. 鉄は加工が困難であったため、刃先も含めてすべて石で代用する手法が普及した | 4. 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した |
|--|--|---|--------------------------------------|
- 問9 3世紀頃の日本（倭）の様子が詳しく記されている中国の歴史書『三国志』の一部で、邪馬台国の女王である卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」という称号を授かったことなどが記述されている資料の名前として正しいものを選びなさい。 (2017年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|----------|-----------|
| 1. 漢書地理志 | 2. 日本書紀 | 3. 魏志倭人伝 | 4. 後漢書東夷伝 |
|----------|---------|----------|-----------|
- 問10 邪馬台国の女王卑弥呼に関する記述として、最も適当なものはどれか。 (2016年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 摂政である聖徳太子とともに、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。 | 2. 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。 | 3. 夫である天皇の死後、軍を率いて朝鮮半島へ出兵したという伝説がある。 | 4. 日本で初めて本格的な都城である藤原京を造営し、国家体制を整えた。 |
|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
- 問11 弥生時代に使用された青銅器である「銅鐸」の変化や、当時の社会における役割について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2020年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大陸の王朝から日本の王に授けられたもので、金印とともに当時の日本が中国の皇帝に認められていたことを示す外交上の重要な証拠となった。 | 2. もともとは実戦で使うための鋭い刃を持つ武器であったが、次第に大型で薄い形状になり、首長の権威を示すための宝物として扱われるようになった。 | 3. 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。 | 4. 死者の霊を守るためや王の権力を誇示するために、古墳の表面に並べられた土製の焼き物として、全国各地の有力な豪族の間で広まった。 |
|--|---|---|---|
- 問12 弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2017年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|---------------|-------------|-------------|
| 1. 和同開珎と高床倉庫 | 2. 銅剣・銅矛と高床倉庫 | 3. 石包丁と竪穴住居 | 4. 石包丁と高床倉庫 |
|--------------|---------------|-------------|-------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。	卑弥呼は、中国の王朝である魏に使者を送ることで、当時の先進国である中国の皇帝から自らの統治を認めてもらおうとしました。その結果、魏の皇帝から「親魏倭王（しんぎわおう）」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、その権威を背景に国内の統治を安定させようとしたと考えられています。
問2	答え 2 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を壕や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。
問3	答え 4 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。	縄文時代の狩猟・採集中心の生活から、弥生時代の稲作中心の生活へ移行すると、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる貧富の差や集落間の対立が生まれました。こうした紛争（戦争）の証拠として、防御用設備を備えた環濠集落や、矢を射込まれた人骨などが各地で発見されています。
問4	答え 4 中国の皇帝から王としての地位を認めもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。	当時の日本（倭）は多くの小国が分立しており、各地の有力者は自らの権威を強めるために、強大な権力を持つ中国の皇帝に使者を送りました。皇帝から「王」として認められ、その証として金印や銅鏡などの貴重な品を授かることは、周辺の他の勢力に対して自らの支配力の正当性を示す大きな強みとなりました。
問5	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問6	答え 1 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。	鉄は青銅に比べて非常に硬く、刃先を鋭く研ぐことができるため、木を伐採したり土を掘り起こしたりする農具、あるいは高い殺傷能力が求められる武器に最適でした。対して青銅は、鉄に比べると柔らかく脆いため、激しい衝撃が加わる実用的な道具には不向きであり、主に祭祀用の道具（祭具）としてその価値を見出されました。
問7	答え 2 中国の歴史書『魏志倭人伝』の記述と、邪馬台国の女王が魏の皇帝から授かったとされる多数の銅鏡。	3世紀の邪馬台国の時代は、文献史料を中国の『魏志倭人伝』に頼る必要があります。そこには卑弥呼が「魏」の皇帝から鏡などを贈られたことが記されており、考古学の分野で出土する銅鏡との関連が研究されています。選択肢にある「金印」は1世紀、「戸籍」や「富本銭」は7世紀後半以降のものであり、3世紀の状況を示すものではありません。
問8	答え 4 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせた工夫により、耕作の効率が向上した	古代の農具の改良に関する資料などでは、木製農具の先端部分を鉄で補強する記述が見られます。鉄は木材よりも硬く鋭いため、これを刃先として利用することで土地を効率よく耕し、生産性を高めることができました。こうした技術の進歩が、のちの国力の増大や社会構造の変化を支える基盤となりました。
問9	答え 3 魏志倭人伝	3世紀の日本（倭）について詳しく記述されているこの資料は、中国の歴史書『三国志』の中に含まれています。邪馬台国の女王である卑弥呼が魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった事実が記されており、当時の日本の政治や社会状況を知るための極めて重要な史料です。なお、選択肢にある『日本書紀』は8世紀に日本で作成された歴史書であり、混同しないよう注意が必要です。
問10	答え 2 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。	『魏志』倭人伝には、卑弥呼が239年に魏へ使いを送り、その返礼として金印や銅鏡100枚を与えられたと記されています。他の選択肢は、それぞれ推古天皇、持統天皇、神功皇后に関連する内容であり、卑弥呼の事績ではありません。
問11	答え 3 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。	銅鐸は、古い段階のものは小型で、中に「舌」と呼ばれる棒を吊るして振り、音を鳴らして使われていた痕跡があります。しかし、時代が下るにつれて急激に大型化し、表面にシカやカマキリ、高床倉庫などの精巧な絵画が描かれるようになるなど、音を鳴らす道具から、儀式の際に見せるための祭祀具へと役割が変化していきました。武器から祭祀具に変化したのは銅剣や銅矛の説明であり、土製の焼き物は埴輪、中国皇帝からの授与品は金印や一部の銅鏡（卑弥呼の鏡など）を指します。
問12	答え 4 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。